

## 家庭レベルのリサイクルの評価および推進について

政策・メディア研究科修士2年

サク セイナン

廃棄物の適切な管理は、公衆衛生、公害対策、資源の有効利用などの観点からみてとても重要です。近年は、国際的にゼロウェイスト、循環型社会、持続可能な発展などのキーワードが注目され、日本国内でも廃棄物管理に高い関心を示し、積極的に取り組んでいる自治体が続出しています。本研究は、その中でもゼロウェイストを宣言した都市を例に、廃棄物管理に長けた地域が実施している一般廃棄物の収集・処理の方法をアセスメントすることを研究目的とします。本研究は以下の3つの手順で展開しました。

まず最初に、国内でゼロウェイストを宣言した都市の事例分析をし、研究の対象地を選定しました。ゼロウェイスト宣言をした時期が早く、廃棄物管理に取り掛かった歴史も長く、しかも処理施設への依存度が低い水俣市を本研究の研究対象に選定しました。

次に、定量分析による収集・処理の効果及び効率を検証しました。水俣市は20種類以上に及ぶ高度なごみの分別により、長年高いリサイクル率を維持しています。ごみの排出量も最終埋立量も取り組む前より大幅に減少しています。また、家庭での分別を推進しているため、その処理コストも低いです。水俣市の一般廃棄物の収集・処理の効果も効率はとてもよいと言えます。

最後に、現在のやり方に対して市民の受け入れ度・満足度を定性分析で調査しました。水俣市の現在のごみ収集について、わずかの11.1%の人だけがネガティブな意見を持っていませんでした。水俣市の一般廃棄物の収集・処理の方法がよく普及・定着していることが証明されました。

以上のアプローチのより、水俣市には、生ごみを専用の袋の代わりにバケツ方式で収集することを提言し、他の地域へは、住民にごみ分別の大切さを伝え、分別の精度とモチベーションが保つような環境教育及び政策・制度を考案すれば、水俣市が取り入れているような高度なごみの分別の横展開の可能性は十分にあると考察しました。